

大阪市立平林小学校 令和元年度 校長経営戦略支援予算【基本配付】実施報告書
(補足説明資料)

本校では、「自ら学び、共によりよく生きようとする子どもを育てる」を学校教育目標に掲げ、「やる気のある子」「やりとおす子」「たすけあう子」の育成をめざしている。

今年度も「凡事徹底」を継続し、「挨拶」「時間」「掃除」の3点を重点とし、現状と課題解決のための取り組みを、継続・深化・充実させていく。

現状と課題**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

- ① 基本的な生活習慣の確立のため、特にあいさつや言葉遣いに重点を置いた指導を行っている。朝の校門指導や「あいさつ週間」の指導、学級での取り組みにより、あいさつすることへの意識の高まりが見られるようになっている。さらに、児童会活動のあいさつの呼びかけもあり、自ら進んであいさつができるようになってきている。今年度も昨年度から強化した看護当番体制を維持し、登校時や休憩時間の過ごし方の指導や看護の徹底を図っていく。言葉遣いについては、多くの子どもたちがその場にあった話し方ができるようになってきているが、相手を傷つける言葉遣いは依然として見られ、トラブルが大きくなる原因ともなっている。あいさつの励行や相手の気持ちを考えた正しい言葉遣いについては、全校朝会や学級指導で注意を促すことを今後も継続的に進めていく。
- ② 安全安心な学校生活を過ごすためには、ルールを守ることが重要であることを丁寧に指導し、規範意識の育成に努めてきた。その結果、チャイムの合図や遊びのルール等については多くの児童がルールを守ることができているが、登校時刻を守れていない児童については家庭環境による影響もあり、改善がなかなか図られていない。「時間を守る」ことの大切さについて児童に徹底した指導を進めていくとともに保護者への啓発もより一層行っていく必要がある。学校安心ルールについてもあらゆる機会をとらえて指導を行うなど、規範意識を高めるための指導を学校全体で徹底して行っていく。
- ③ たてわり班活動で集会、清掃、行事などの活動を継続して取り組むことにより、異学年交流が深まり相手を思いやる心の育成が図れている。また、道徳の時間を中心に一人一人の違いを認め、互いの人権を尊重することの大切さを学ばせてきた。その結果「いじめや仲間外れ」についてより深く考える児童が増えきている。今後も道徳の授業や人権教育の充実を図り、命の大切さを学び、自尊感情の醸成を図っていけるよう取り組んでいく。
- ④ 運動場の芝生や学習園の整備、教室環境の改善など学習環境の整備に努めるとともに、児童が校内美化に関心を持ち、協力して学校を美しくしようとする態度を育てるために普段の清掃活動以外に児童会が主となってたてわり清掃も実施している。校内美化・環境整備について、継続して行うことで、自分の学校を大切に思い、ものを大切にしようとする気持ちを育てていきたい。
- ⑤ 地域清掃活動や防災学習など、保護者や地域とも連携した取り組みを行い、学校教育活動を地域・保護者に公開している。学校HPを活用し情報発信に努めたため、閲覧件数も大幅に増え地域・保護者にも浸透しつつある。今後も一層の情報発信に努めるとともに、児童の健全育成のために区や地域、こども園・隣接の小中高等学校との連携を進めていく。

【心豊かに力強く生き抜く未来を切り開くための学力・体力の向上】

- ① 毎朝の算数タイムにより、計算力の向上等、算数科の基礎的、基本的内容の定着を図っている。また、児童の語彙力向上のために辞書引き学習にも取り組んできた。さらに、日常的に

少人数授業や習熟度別授業を実施するなど、学習形態や指導形態の工夫に努め学習内容の充実を図っている。大阪市学力経年調査においては、前年度に比べ大幅な改善が見られ、一定の手ごたえも感じられた。しかし、まだまだ課題も多くその差もあるため、少人数授業や習熟度別授業を深化充実させ、よりきめ細やかな指導を行うとともに、地域や家庭の協力を得、児童の学習環境を整えていく必要がある。

- ② 体験的活動や言語活動を積極的に取り入れた授業づくりを行うことで、興味関心を喚起させ、その中で発表する力や書く力、集団で活動する力を身につけさせるように取り組んできた。また、発表話型を提示・活用する指導や発表形態の工夫を行ったため、多くの児童がしっかりと発表できるようになってきたが、活発な発表や内容の充実が図られるまでには至っていない。
- ③ 学校全体で児童が主体的・対話的で深い学びができるよう指導法を工夫した授業研究を行っている。講師を招いて研修会を開き指導力の向上に努めたり、各種の研修会に積極的に参加したりしている。児童が「できた・わかった」と実感できる授業づくりができるよう、より一層指導力向上のための研修を充実させる。
- ④ ICT機器(タブレット・パソコン・大型テレビ等)・デジタル教科書などを整備し、有効活用した授業実践を行うことで、わかりやすい授業づくりに努めてきた。また、プログラミング教育の取り組みを行うことで、児童の抵抗感をなくし、ICT機器を活用することの楽しさを味わわせることができた。
- ⑤ 家庭学習の習慣化を目指し、学校だよりや保護者懇談を通じて周知している。家で、授業の復習をする児童も増えつつあるが、その割合はまだ高いとは言えない。学校HPなどを有効活用し、保護者がより学校教育活動に関心を持ち、家庭学習の大切さを理解してもらえよう啓発や呼びかけを行っていく。
- ⑥ なわとび週間やかけあし週間、学級単位のみんな遊びの取り組みや放課後の校庭開放時間の延長、遊具の改善や新たな運動用具の学級配付など、運動能力向上のための様々な取り組みにより、多くの児童が外へ出て身体を動かすようになってきており、健康・体力の保持増進を図る生活態度が身についてきている。その結果、全国体力・運動能力調査において大幅な改善が見られた。しかし、家庭環境などにより、積極的に運動に取り組めない児童も依然としており、高学年になるにつれて、運動能力の差が激しくなっている。運動環境の整備や年間を通じた体力向上の取り組みをさらに継続して取り組む必要がある。
- ⑦ 定期的に行う手洗い・うがいがんばり週間などを実施することにより、健康・衛生面の意識が向上してきている。
- ⑧ 栄養指導や日々の給食指導で、食への関心が高まり給食のおかずを残さず食べるようになってきた。朝食抜きの児童に対して指導するとともに、家庭への啓発を積極的に行う必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- よりよい学校生活をおくるために、基本的な生活習慣の確立を図り、令和2年度末の児童アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目と「すすんであいさつしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合とともに90%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

- 令和2年度末の児童アンケートにおける「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目と「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合をともに90%以上にする。

（施策2 道徳心・社会性の育成）

- 令和2年度末の保護者アンケートにおける、「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目と、「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合をともに85%以上にする。

（施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜く未来を切り開くための学力・体力の向上】

- 基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることで、令和3年度全国学力・学習状況調査において、国語・算数の正答率を対全国比80%以上にする。また令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を平成28年度より向上させ、学力経年調査4教科合計を対象全ての学年で対市90以上にするとともに、国語・算数において2学年以上で大阪市平均またはそれを上回るようにする。

（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

- 令和2年度算数検定（1～6年）や漢字検定（3～6年）の合格率を平成30年度よりも向上させ、それぞれ75%、70%以上にする。

（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

- 主体的で対話的な深い学びのある授業実践を行い、令和2年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「している（どちらかといえばしている）」と答える児童の割合を平成28年度より増加させる。

（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

- 体験的学習や外部人材の積極的活用・ICT機器や図書館の有効活用により授業改善を行い、令和2年度末の児童アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」「学校での読書を楽しみにしている」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。

（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

（施策6 国際社会において生き抜く力の育成）

- 令和2年度末の児童アンケートにおける「家で復習やほかの勉強している」の項目について、肯定的回答を80%以上に、保護者アンケートにおける「家庭で復習やほかの勉強をする習慣が身についている」の項目について、肯定的回答の割合を70%以上にする。

（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

- 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における20mシャトルラン・反復横跳びの平均の記録を平成28年度よりも向上させる。

（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成）

- 令和2年度末の児童アンケートにおける「すききらいせずに食べている」「朝ごはんを毎日食べている」の項目について、肯定的回答を90%以上にする。

（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成）

- 令和2年度末の児童アンケートにおける「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」「手洗いやうがいをしっかりするなど、健康に気を付けている」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。**（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成）**

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。（H30 100%）
- 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまりを・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。（H30 89.4%）
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。（H30 1件）
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。（H30 0.54%）

学校の年度目標

- よりよい学校生活をおくるために、基本的な生活習慣の確立を図り、平成 31 年度末の児童アンケートにおける「すすんであいさつしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。（H30 95%）
- 道徳や人権教育の取り組みを積極的に推進し、平成 31 年度末の児童アンケートにおける①「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目と「②学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合をともに 85%以上にする。（H30 ①96% ②95%）
- 地域清掃活動や防災学習など、保護者や区・地域と連携した取り組みや地域の保育所・こども園、近隣小中高等学校との連携、学校HPの活用などにより、平成 31 年度末の保護者アンケートにおける、①「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目と、②「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合をともに 85%以上にする。（H30 ①87% ②86%）

【心豊かに力強く生き抜く未来を切り開くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も 2 ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も 2 ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査（校内調査）における①「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。（H30 60.7%）
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点を男女とも大阪市平均以上にする。

学校の年度目標

- 体験的学習や外部人材の積極的活用・ＩＣＴ機器や図書館の有効活用により授業改善を行い、令和元年度末の児童アンケートにおける①「学校の授業はわかりやすい」②「学校での読書を楽しみにしている」の項目について、肯定的回答の割合を 85%以上にする。
(H30 ①91% ②83%)
- 基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるため、日々継続した指導を行うことで令和元年度の漢字検定の合格率を 60%以上 (H30 54%) に、算数検定合格率を 70%以上 (H30 65%) にするとともに、家庭学習の習慣化を図り、令和元年度末の児童アンケートにおける①「家で復習や他の教科の勉強をしている」の項目についての肯定的回答を 75%以上に、保護者アンケートにおける②「家庭で復習やほかの勉強をする習慣が身についている」の項目について、肯定的回答の割合を 55%以上にする。
(H30 ①68% ②48%)
- 食育の充実や家庭への啓発を行い、令和元年度末の児童アンケートにおける「すききらいせずに食べている」「朝ごはんを毎日食べている」の項目について、肯定的回答をともに 90%以上にする。(H30 ①87% ②93%)
- 体力づくりの取り組みや環境の整備などを通じて、児童の体力・運動能力を向上させるとともに、健康で安全な生活習慣を身につけさせる。令和元年度末の児童アンケートにおける「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」「手洗いやうがいをしっかりするなど、健康に気をつけている」の項目について、肯定的回答を引き続き 85%以上にする。(H30 ①95% ②92%)

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】にむけて

全市共通目標、学校の年度目標については、全項目について目標通り達成できた。目標達成に向けての取組内容についても目標通り達成できた。（不登校については、前年度と同じ人数であるが、母数の減少により割合増加）いじめや暴力行為の未然防止に向けては、毎月の生活指導連絡会やスクリーニング会議を通じ、児童についての情報を全職員で共有し、児童の課題や家庭環境を把握するとともに、同じ姿勢・方向性で指導に当たることができた。

あいさつについては、肯定的な回答をする割合が 92%と前年度同様に高く、あいさつ週間を含めた取り組みについて一定の効果が見られた。また、教職員である大人が率先してあいさつする姿を示したことも向上した大きな要因となっている。来年度以降も継続的に取り組み、指導体制の更なる充実、および児童会活動の取り組みの深化を進めていく。

道徳教育の充実についても、「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」「学校では命の大切さを学んでいる」の肯定的回答はともに 95%を超えており、指導力の向上が児童の実践力向上へと繋がっている。

地域との連携については、これまでも積極的に情報交換等を行い、児童の自己実現に向け

て、協働的に取り組むことができている。今年度についても、区役所からは放課後学習サポート事業、地域からは子どもの居場所づくり事業として学習支援をしていただいた。来年度以降も「地域の子ども・地域の学校」ということを念頭に置き、地域の方々と繋がる機会を増やしていけるようにしていく。

また保護者への発信・啓発活動も積極的に行っており、学校HPの閲覧数や保護者一斉メール加入率や既読・返信率も増加している。学校・保護者・地域がつながりを更に強め、三位一体となって安心して成長できる安全な社会の実現に努めていきたい。

【心豊かに力強く生き抜く未来を切り開くための学力・体力の向上】にむけて

全市共通目標である経年調査結果については、目標である下位層の減少と上位層の増加が大きく改善されたことで、4教科の平均正答率が4学年中3学年で大阪市平均を上回る結果となった。この1年間を通して取り組んだ「基礎・基本の定着を目指した授業」「これまでに以上にきめ細やかな習熟度別少人数授業」の取り組みに大きな効果が出てきたと考える。

一方で、今年度6月に実施した算数検定では、合格率が前年度よりも下回る結果となった。その結果を受けて、夏季休業中に教員全体で結果の分析や課題の共有を行い、2学期より新たな取り組み「アフターフォロータイム」を講じたことが、12月に実施された学力経年調査の好結果に繋がったと考えられる。

外部人材の活用やICT機器の積極的活用としては、これまで同様に出席授業や体験的活動を取り入れた授業づくりなどを学校全体で数多く取り組んできた。そのことで「学校の授業はわかりやすい」の項目で肯定的に回答する児童の割合が更に向上した。また、ICT機器の充実や校内研修を行ってきたことで、児童用タブレットパソコンの使用回数も昨年度より着実に増えている。

体力面についても、昨年度に引き続き男女とも体力合計点において大阪市平均を上回る結果となっている。本校の長年の課題であった20mシャトルラン・反復横跳びの平均の記録についても大阪市平均を超える結果となった。体力についても課題を全教職員で共有し解決しようと組織的に取り組んだことが大きな要因の一つとなっている。

健康面においては、朝食の喫食率において昨年度より改善したものの、依然、全国・大阪市平均を下回る結果となっている。基本的な生活習慣のあり方については、粘り強く指導・啓発をしてきたが、なかなか向上していない現状である。スマートフォン等SNSとの付き合い方については、講師を招聘するなどし、情報モラルや適切なスマホの使用の仕方について指導してきた。しかし、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどを見ている時間が、「5時間以上」と回答する児童の割合が大幅に高く、それに伴い全体的にも長時間になっている傾向にある。衣食住など家庭での過ごし方については、保健指導・保健学習を通して指導しているが、保護者の協力があってこそ実現するものである。これまでも児童の基本的な生活習慣の確立のために、家庭教育の重要性を発信してきているが、更に保護者への啓発を図るとともに、地域や関係諸機関との協力体制を整えて児童の健全育成に努めていく必要がある。

(様式例 2)

大阪府立 平林小学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。<u>(H30 100%) (R1 100%)</u> ○ 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまりを・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。<u>(H30 89.4%) (R1 93.1%)</u> ○ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。<u>(H30 1 件) (R1 1 件)</u> ○ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。<u>(H30 0.54%) (R1 0.65%)</u> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ よりよい学校生活をおくるために、基本的な生活習慣の確立を図り、令和元年度末の児童アンケートにおける「すすんであいさつしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。<u>(H30 95%) (R1 92%)</u> ○ 道徳や人権教育の取り組みを積極的に推進し、令和元年度末の児童アンケートにおける①「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目と②「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合をともに 85%以上にする。<u>(H30 ①96% ②95%) (R1 ①95%②95%)</u> ○ 地域清掃活動や防災学習など、保護者や区・地域と連携した取り組みや地域の保育所・こども園、近隣小中高等学校との連携、学校HPの活用などにより、令和元年度末の保護者アンケートにおける、①「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目と、②「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合をともに 85%以上にする。<u>(H30 ①87% ②86%) (R1 ①96% ②93%)</u> 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】	

<p>○基本的な生活習慣の確立に関しては、すすんであいさつをすることができるように学校・学年・生活だより学校HP等で保護者への啓発を図る。</p> <p>(マネジメント改革関連)</p> <p>○児童会のあいさつ週間においては、ポスターをつくり、校内の啓発を図る。また、事前にあいさつについての指導を学級で行い、毎日、自分は場に応じたあいさつができたかどうかの振り返りをさせることで、意識を向上させる。また、あいさつ運動すすめ隊以外の児童もあいさつ運動に参加できるようにし、児童がお互いにあいさつしあえるような環境をつくる。</p> <p>(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標</p> <p>○児童会が企画した「あいさつ活動」を年2回以上実施する。</p> <p>○生活だよりを年12回以上発行したり、あいさつ運動の様子などをHPに掲載したりするなどして、基本的な生活習慣について保護者への啓発を図る。</p>	
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>○思いやりの気持ちを育むために、学校行事の様々な場面においてたてわり班活動を充実させる。</p> <p>○全校朝会で道徳心や社会性を高めるための講話を行う。また、人権・平和についての学習を全校で行い、命の大切さや人権について考える機会を多くとる。</p> <p>(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標</p> <p>○秋に全校遠足を行うほか、児童集会でのたて割り班活動以外にも、学期に1回以上、異学年交流を実践する。</p> <p>○全校朝会では、毎回道徳心や社会性を高める講話を毎回行い、人権・平和学習の日を設けて全校で命の大切さや人権について考える。</p>	
<p>取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>○防災学習や清掃活動などを地域、保護者、関係諸機関と連携を取って進めていく。</p> <p>○地域のこども園と連携し、校庭を開放する。その中で小学校のことを知ってもらったり、児童との関わりの機会を持ってもらったりする。</p> <p>○学校だより、学年だより、生活だより等を発行し、学校の教育方針を保護者に対して事前に明示しておく。また、普段の学習の様子や行事の様子を学校ホームページに掲載し、教育活動を発信していく。</p> <p>(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標</p> <p>○地域や保護者にも参加してもらええる行事として、防災学習や地域清掃を全校行事にして取り組む。</p> <p>○学校の教育方針を示した各お便りを毎月発行する。</p> <p>○行事や取り組みごとに、学校ホームページを更新し、HPアップ数を週5回以上目指す。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①あいさつの啓発は、目標通り取り組みができたが、自発的にできるようになるような取り組みが必要である。</p> <p>②児童集会やプール水泳・運動会など、異学年交流を目標通り取り組むことができた。</p> <p>③指標としている項目について、搬送訓練を取り入れるなど、目標を上回った取り組みを行うことができた。</p>	

次年度への改善点
<p>①自発的なあいさつを行うために、あいさつ運動すすめ隊に対して、事前事後に指導をし、あいさつ運動の意識を向上させるなど、あいさつの質を高める必要がある。</p> <p>②来年度から、委員会活動を4年生から参加させるなど、学校の仕事や行事に対しても異学年との協力する体制をつくり、活躍の場を増やす必要がある。</p> <p>③防災訓練に合わせて引き渡し訓練を行うなど、次年度予定されている行事や取り組みの内容を向上させていく。</p>

(様式例2)

大阪市立 平林小学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜く未来を切り開くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 (R1 4年+8.6ポイント 5年-3.7ポイント 6年+16.1ポイント)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も3ポイント減少させる。 (R1 4年-13.9ポイント 5年13.2ポイント 6年-26.4ポイント)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も2ポイント増加させる。 (R1 4年+12.1ポイント 5年-1.5ポイント 6年+16.6ポイント)</p> <p>○ 小学校学力経年調査(校内調査)における①「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。(H30 60.7%) (R1 76.4%)</p> <p>○ 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点を男女とも大阪市平均以上にする。(大阪市 男 52.53 女 54.14) (平林小 男 54.4 女 54.58)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 体験的学習や外部人材の積極的活用・ICT機器や図書館の有効活用により授業改善を行い、令和元年度末の児童アンケートにおける①「学校の授業はわかりやすい」②「学校での読書を楽しみにしている」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。 (H30 ①91% ②83%) (R1 ①93% ②83%)</p> <p>○ 基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるため、日々継続した指導を行うことで令和元年度の漢字検定の合格率を <u>60%以上 (H30 54%)</u> に、算数検定合格率を70%以上 <u>(H30 65%) (R1 63.77%)</u> にするとともに、家庭学習の習慣化を図り、令和元年度末の児童アンケートにおける①「家で復習や他の教科の勉強をしている」</p>	<p>B</p>

<p>の項目についての肯定的回答を 85%以上に、保護者アンケートにおける②「家庭で復習やほかの勉強をする習慣が身についている」の項目について、肯定的回答の割合を 50%以上にする。(H30 ①68% ②48%) (R1 ①71%②59%)</p> <p>○ 食育の充実や家庭への啓発を行い、令和元年度末の児童アンケートにおける①「すききらいせずに食べている」②「朝ごはんを毎日食べている」の項目について、肯定的回答とともに 90%以上にする。(H30 ①87% ②93%) (R1 ①78%②90%)</p> <p>○ 体力づくりの取り組みや環境の整備などを通じて、児童の体力・運動能力を向上させるとともに、健康で安全な生活習慣を身につけさせる。令和元年度末の児童アンケートにおける「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」「手洗いやうがいをしっかりするなど、健康に気をつけている」の項目について、肯定的回答を引き続き 85%以上にする。(H30 ①95% ②92%) (R1 ①90%②85%)</p>	
---	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために指導法の工夫に取り組む。</p> <p>○学ぶ楽しさを感じることができる授業づくりを行う。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○研究授業を実施計画通り、年14回以上行い、そのうち外部に1回以上公開する。また、校内自主研修を5回以上行い、授業力アップを目指し、「わかる授業」の実践に努める。</p> <p>○学ぶ楽しさを感じることができるよう、タブレットを使った授業を月2回以上行う。</p>	B
<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○チームティーチングや少人数クラス、習熟度別クラスで授業を行い個に応じたきめの細かい指導を行う。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○レディネステストをもとに習熟度別少人数授業ごとにクラス分けを行い、個に応じたきめの細かい授業を年間7単元以上行う。</p>	A
<p>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p style="text-align: center;">【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>○体験的学習や外部人材の積極的活用・ICT機器や図書館の有効活用により授業改善を行う。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○外部人材を活用した授業を、学年で年間1回以上行う。</p> <p>○国語と算数の授業開始2分間にフラッシュ暗算や漢字のフラッシュカードなどの学習を行う。</p> <p>○地域の図書館より学期に1回の学級図書の貸し出しを行い、読書推進委員会発行の読書カードを活用し、1人年間50冊以上の読書量を目指す。</p>	B

取組内容④【 施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組 】 ○学校便りや学校ホームページを積極的に活用し、家庭学習の大切さについて啓発していく。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 ○学校ホームページに、学期に２回は各学年で授業や発表の様子をアップし、家庭学習の大切さについての記事を載せる。 ○自主学習の取り組みを３年生以上で行い、家庭学習の習慣をつける。	
取組内容⑤【 施策７ 健康や体力を保持増進する力の育成 】 ○食育を推進し、食に関する指導の充実に取り組む。そのために給食週間を設け、食への興味・関心を高められるように指導する。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 ○栄養教諭による食育指導を各学年で年間２回行う。 ○「食育だより」を月１回配布し、食に関する指導を行う。 ○給食週間を年間１回以上行う。	
取組内容⑥【 施策７ 健康や体力を保持増進する力の育成 】 ○健康で安全な生活習慣を身につけさせる。そのために正しい姿勢の指導を行い、手洗い・うがいがんばり週間、チェックカード、保健指導を通して、健康や衛生面の意識向上や正しい知識や望ましい態度を学ばせる。 (カリキュラム改革関連) ○「保健だより」等を発行し、保護者・地域への啓発を行う。(マネジメント改革関連)	B
指標 ○手洗い・うがいがんばり週間を年３回、正しい姿勢の指導（体幹トレーニング）を年５回以上行い、「保健だより」等を年１１回以上発行し、すべての教育活動を通じて健康で安全な生活習慣を身につけさせる指導を行う。	
取組内容⑦【 施策７ 健康や体力を保持増進する力の育成 】 ○運動能力の向上を図り、運動の楽しさを実感させる教育活動を充実させる。そのために、なわとび週間や外遊びの日を設けて、全校児童の運動能力の向上を図る。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 ○体育の時間、各学年にあった時間と距離のかけ足運動を取り入れる。 ○なわとび週間を２週間以上行う。 ○外遊びの日を学級で設けて、１週間に１度は外遊びを行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①LAN回線の工事も終わったので、目標の月２回以上のタブレット活用に努める。 ②算数科で習熟度別・TTなどの学習形態の工夫をし、児童のやる気や学力の向上に役立っている。 ③フラッシュ暗算や漢字フラッシュカードの活用をタブレットや電子黒板でも行う。 ④年度当初の目標では、自分の学年分を学期に２回ホームページにアップすることになっていたが、単学級のため授業をしながら写真を撮ることもなかなか難しい。学年部会ごとに誰かがアップしているのが現状である。年度末に向け意識して取り組んでいく必要がある。また、自主学習については指標を示し、取り組みに励む。 ⑤⑥計画通り順調に取り組みができている。 ⑦元気に外遊びする児童もいたが、暑さもありなかなか体力向上とまでは至っていない。	

冬に向け体力をつけるために取り組みを進める必要がある。
次年度への改善点
<ul style="list-style-type: none"> ①タブレットの使用がスムーズにできるように技量アップに努める。 ②フォローアップタイムを継続して行っていく方がよい。副教材の選定時に 6 年間を見通したものを採用するようにする。 ③読書に親しむ子は増えているが、50 冊の目標達成にはまだ至っていない。フラッシュカード漢字の教材を探す。 ④HP へのアップに挑戦する。 ⑤継続指導する。 ⑥継続指導する。 ⑦天気の良い日に外遊び推進 DAY を学期に 1 回設ける。